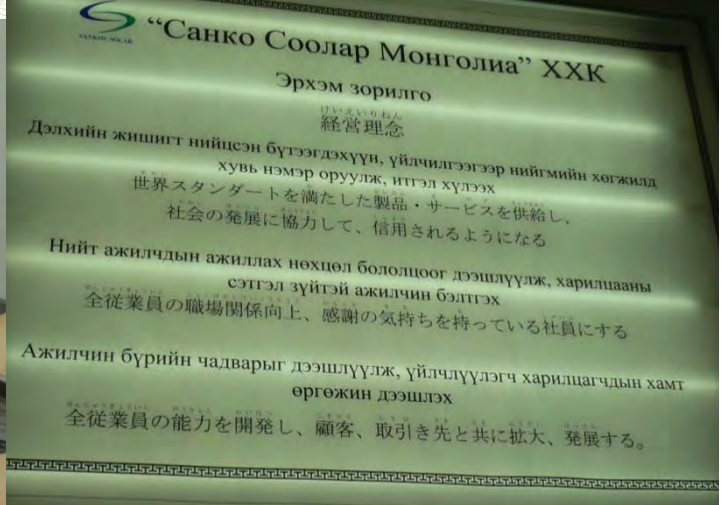


滋賀県中小企業家同友会海外ビジネス研究会（HIP 滋賀）

第4回アジア視察研修会レポート

○と き：2015年8月24日（月）～8月30日（日）

○ところ：中国・北京～モンゴル・ウランバートル



2015年10月 7日
滋賀県中小企業家同友会

○第4回アジア視察研修会レポート

はじめに～

滋賀県中小企業家同友会・(協)HIP滋賀の海外ビジネス研究会(代表 小林清 近江化成工業社長)は、2015年8月24日(月)出発～8月30日(日)帰国で、第4回アジア視察研修会を開催しました。

新産業創造委員会と(協)HIP滋賀では2012年から海外ビジネス研究会を立ち上げ、メンバー企業の海外展開事例の生きた学習を行い「百聞は一見にしかず」の姿勢で、まずは現地を訪れてみることに、そして一般的な視察ツアーでは触れることが出来ない現地の暮らしや人々との交流、起業家との意見交換を通じて、自らの国際感覚を磨くと共に、より広く、高い視点で自社の存在する意義や理念を振り返り、国際社会に貢献する企業づくりを目指してきました。

そして今回は、日本と大変にゆかりの深い国であるにもかかわらず、あまりにも知られていない国「モンゴル」に照準を合わせ、訪問することにいたしました。それも、単に訪問するだけでは面白くない！という鉄チャンの要望で、北京からモンゴル・ウランバートルまでを走っている国際列車、シベリア鉄道の支線(裏シベリア鉄道)を利用することにしました。

研究会内に企画委員会を設置し、飛行機、列車、ホテルの予約、さらにウランバートルで我々を迎えていただくパートナーさんとの連絡など、すべてメンバーが役割分担をして行いました。これはもう、ツアーエージェントさん顔負けの技。企画委員(松本さん、小林さん、小田柿さん、河村さん)の皆さん、本当にお世話になりました！。

さらに、北京で視察団に合流し、ウランバートルまでの鉄道の旅をサポートしていただいた、辰野(株)・上海辰野貿易有限公司 経理 朝克様(素晴らしい歌声でした)、ウランバートルでの計画を綿密に立てていただき、すべてをアレンジしていただいた SMART ENERGY 社の EXECUTIVE DIRECTOR AMARSANAA Tur-Amagalan 様(通称:アマちゃん)と、そのご友人(立命館大学政策科学部はじめ、日本での留学経験をお持ちの方、また現在新潟の長岡工業高等専門学校留学中の“おにぎり”ちゃん?)で通訳や身の回りのサポートをしていただいた皆様に、この場をお借りして心からお礼を申し上げます。

Thanks to all of you, I had a wonderful time in Mongolia !

《参加者名 順不同 敬称略 名前・会社名・社内役職》

1. 河村 剛 (株)ローカライズ 代表取締役
2. 大日陽一郎 山科精器(株) 専務取締役
3. 筒井長徳 龍谷大学エクステンションセンター コーディネーター
4. 青柳孝幸 (株)PRO-SEED 代表取締役
5. 小田柿喜暢 大洋産業(株) 代表取締役
6. 谷口 洋 大洋産業(株) 取締役
7. 前出博幸 前出産業(株) 代表取締役
8. 小林 清 近江化成工業(株) 代表取締役
9. 松本和幸 (株)松本電機製作所 代表取締役

- 10. 松崎悦子 (株) EGS 代表取締役
- 11. 澤田友宏 (株) クローバー 代表取締役
- 12. 石川朋之 (株) HONKI 代表取締役
- 13. 張 琴 (株) HONKI 相談役
- 14. 廣瀬元行 滋賀県中小企業家同友会 専務理事
- 15. 辰野光彦 辰野 (株) 取締役
- 16. 朝 克 辰野 (株) 上海經理
- 17. 岩崎健次郎 ソニー生命保険 (株) ライフプランナー

《行程》

第4回アジア視察研修会行程表

2015.08.17作

※時間は予定ですので、随時打ち合わせてからの行動となります。

	発着地・滞在地	飛行機 鉄道時間	交通	備考	備考
8月24日(月)	関空発 CA928 北京着 空港⇒ホテル移動 夕食 泊)北京:インナー モンゴリア グランド ホテル 王府井 No.2, Chong Wan Inner Street, 東城区, 100005 北京市, 中国	13:50 16:25	飛行機 タクシー	前泊 小林, 大日, 前出, 辰野2, 岩崎 集合:10:30国際線フロアCカウンター前 お金管理:廣瀬 前泊班と合流(ホテル) 夕食会場:小林(¥5,000円飲食込み)	
8月25日(火)	ホテル⇒駅移動 北京発 シベリア鉄道K23号 終日移動 鉄道の旅にて 国際感覚を磨く! 泊)車中泊	11:22	タクシー 鉄道	食事は食堂にて 時間は出たとこ勝負	
8月26日(水)	移動 ウランバートル着 フラワーホテル着 夕食 Altai Restrant 現地メンバーとの 夕食ミーティング 泊)UB:フラワーホテル Bayanzurkh Duureg, Zaluuchud Avenue-18, Ulaanbaatar, Mongolia	14:20 15:30 18:00	専用車	Ecobus company ※石川, 張, 合流(ホテル) Altai Restrant of Flower Hotel 夕食・ミーティング ホテル手配	
8月27日(木)	ウランバートル ビジネスツアー 企業視察 ①Ecobus Company ②Sanko Solar company ③Megawatt company 昼食 Broadway 120 企業視察 ④UB Carpet company ⑤Nomim Construction company ホテル帰着 夕食 泊)UB:フラワーホテル	8:30 12:00 17:00 18:00	専用車	ホテル出発 Ecobus company 視察先コーディネーター Amarsanaa 氏 Broadway 120 Mongolians restrant	
8月28日(金)	テレルジへ移動 朝食 Hoursetrekking 終日、テレルジにて滞在 Activity ～ 夕食 泊)テレルジ:ゲル Hoursetrekking	8:00 9:00 18:00 18:30	専用車	Ecobus company Hoursetrekking 昼食 Hoursetrekking Hoursetrekking 夕食後、自由時間 ゲルの部屋割は現地にて Hoursetrekking	
8月29日(土)	朝食 チンギス・ハーン像 昼食 ローカルマーケット訪問 さよならパーティー Grand Khan Irish Pub 空港移動 空港到着 ウランバートル発 CA956 北京着 泊)北京	7:00 9:30 12:00 15:00 16:30 17:30 19:30 20:40		終日バスツアー Food Court of State Department Store Grand Khan Irish Pub 空港⇒ホテル移動 宿泊手配	
	ホテル発 北京発 CA927 関空着	6:00 8:40 12:40		ホテル⇒空港 解散	



今回は先発隊6名（小林さん、前出さん、大日さん、岩崎さん、辰野さん、朝さん）が前日に北京入り。8月24日（月）には本隊9名が関西国際空港国際線ロビーに10時30分集合（少々早め）。中国国際航空928便（13:50発）にチェックインし、セキュリティチェックと出国手続きを済ませて、それぞれ搭乗口へ。そして、いよいよ出発のまえに気合いを入れて杯（ビール）を交わしました。



日本と北京の時差は1時間。16:25分に北京首都国際空港に到着。厳しいセキュリティチェックを終えて無事全員が出国！かと思いきや、待ってもまっても預けた荷物が出てきません！。待ちくたびれた頃に、何といつの間にか受け取りラインが変更になっているじゃありませんか(>_<)。これもまた勉強でした。ここから当日の宿であるインナーモンゴリアグランドホテル王府井までは、エアポート急行と地下鉄を使つての移動です。誰か中国語は出来るのですか？？と思ったのですが、ほぼ全員NG！路線図を頼りに片

言チャイニーズと英語で何とかしのぎ、無事最寄り駅に到着。しかしながら・・・地下鉄の階段を大きなバケットを引いて上がる苦しさに、ほぼ全員が戦意喪失。移動の時間は2時間半を超えました。

予定を遅れてのホテル到着後、チェックインのみを済ませ、荷物をフロントに預けたままタクシーで先発部隊が準備している宴の会場へ。しかし、タクシーが場所を間違え、約800メートルを徒歩にて店を探して前進することに。午後8時すぎに何とか辿り着いて乾杯！ですが・・・ビールが出るのに30分はかかったでしょうか！理由は「お客さんが多くてグラスが足りない！？」。お店の雰囲気は最高で料理もうまかったのですが・・・。何はともあれ、これから始まる視察研修の第一夜は更けて行きました(^_^) (M・H記)



◇モンゴル視察の意義と目的

○大洋産業（株）

代表取締役 小田柿喜暢

“モンゴル”と聞くと、草原の国、チンギス・ハン、相撲というイメージを抱く人がほとんどだと思います。モンゴルは、北朝鮮と関係が深く、かつ親日国のモンゴルはこれまでも拉致問題解決に向け、日朝協議の場を提供するなど日本政府に協力してきたことはあまり知られていない事実です。また、日本の伝統文化の相撲においては、朝青龍、白鵬、日馬富士、鶴竜の横綱を輩出しているにも関わらずモンゴルを深く知る人がいないのは不思議なことです。

今回、2013年の日本のODA供与相手国上位10か国に入るモンゴル（10位 165百万ドル）を実際に訪問し、企業、街、自然を見て感じることで、その国を知るきっかけやビジネスのヒントを得る良い機会になると思います。

<JETRO 資料より引用>

○一般概況

面積：156万6,600平方キロメートル（日本の約4倍）

人口：299万5,949人（2014年末、国家統計局（以下、NSO））

首都：ウランバートル（人口137万2,100人）（2013年、NSO）

民族：モンゴル人（全体の95%）およびカザフ人等

言語：モンゴル語（国家公用語）、カザフ語

宗教：チベット仏教等（1992年2月の新憲法は信教の自由を保障）

○基礎的経済指標

主要産業：鉱業、牧畜業、流通業、軽工業

経済成長率：7.8%（2014年速報値、NSO）

インフレ率：11.0%（2014年平均、NSO）

失業率：7.7%（2014年末時点、NSO）

○経済動向

1. 民主化以降、日本を始めとする各国や国際機関の支援により市場経済化に向けた構造改革を推進し、1994年に初めてプラス成長に転じた。その後も順調に経済が発展してきたが、世界的な金融危機の影響を受け、2009年にはマイナス成長となった（-1.3%）。2010年に入り鉱物資源分野の順調な発展に加え、鉱物資源の国際相場の回復が内需の拡大を後押しした。これより、同年の経済成長率は6.4%、2011年は7.3%、2012年も12.3%と高い成長率を維持した。

しかし、2013年は11.6%、2014年は7.8%と鈍化した。

2. 経済分野における諸問題として、(1) 中・露両隣国に過度に依存した経済（モンゴルの輸出全体の9割は対中国。石油燃料のほぼ100%はロシアからの輸入に依存）、(2) インフレ率高騰の懸念、(3) 格差の拡大などに対する懸念が挙げられる。特に、資源ナショナリズムの台頭及び外資規制の結果として、外国直接投資の大幅な減少や、資源価格の低迷等により、国際収支が悪化し、モンゴルの経済は厳しい局面を迎えている。



○北京から国際鉄道にてモンゴル・ウランバートルを目指す！

8月25日（火）、北京から国際列車「シベリア鉄道」にてウランバートルを目指しますが、出発時間まで北京中心部を散策。タクシーで景山公園へ。公園頂上からは故宮を眺めることが出来ました。特筆すべきは、北京の空が結構澄んでいたことです。世界陸上の関係で工場の操業と車の走行が制限された結果だと聞きました。



朝の市場を散策し、地域の暮らし、活気を感じたあと、いよいよ北京駅へ移動。これまた荷物をひっさげて徒歩にて……。同友会の視察研修は、ハードです。

北京駅前の広場は、人ひとひと！。まいました。なめていました。構内入場は長蛇の列。しかもセキュリティチェックがあるではありませんか！。驚きました。東京駅でこんなことをしたら、大パニックでしょう。

辰野（株）・上海辰野貿易

有限公司 経理 朝克様の手助けて、何とか難関を乗り越えた私たちは、ウランバートル行きの列車に辿り着くことが出来ました。

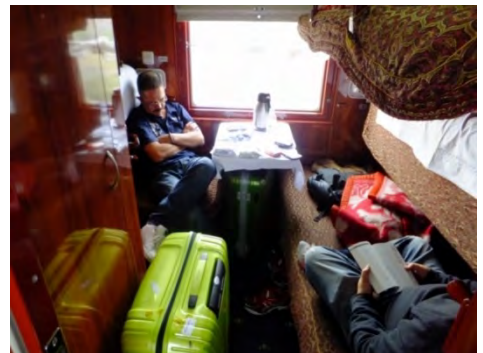
はい、この列車、K23号です。記念に全員ではいポーズ。

皆さん鉄道マニアで、嬉しくてしょうがないご様子です。



ちなみに部屋のグレードは「高包」。写真の通り一部屋二人使用です。シャワールームがあるのですが、水圧弱く使用不可！コップやアメニティグッズは一切なし。驚きの連続でした。

(M・H)



◇「シベリア鉄道」

視察団 団長 小林 清

そう、鉄道ファンや旅好きの人間にとって、この6文字は見た瞬間に心がときめく、憧れのマジックワードだ。

そして今回、区間は北京—ウランバートル間の小区間ではあるが、シベリア鉄道の1等寝台という超絶贅沢な空間で、その非日常的な時を1昼夜過ごすという、私のような鉄道ヲタクには垂涎モノのドリーム企画が実現した。

8月25日。午前10時過ぎの北京中央駅。

私たちの贅沢な旅の始まりを待ち受けていたのは、無情にも中国式の手厳しいお出迎え。

平日の午前だというのに、駅構内は旧正月の帰省ラッシュかと見間違ふような人、人、人の渦。

割り込み旅行者に押され、スリや置き引きに気を配り、大きいスーツケースを引っ張りながら人の波をくぐり抜け、何とか我々のプラットフォームに到着。

そこは、数分前の雑踏が嘘のような、異次元の空間。そして左手には、深緑を基調とした、優雅なフォルムのモスクワ行き列車が私たちをお出迎え。



「おっ〜お！」

童心に返った15人の大人たち。誰もが目を爛々と輝かせながら、列車の先頭を一目見ようと走り出す者、列車のロゴや行き先のパネルを写真に収める者、車掌さんと記念写真を撮る者など、各々が思い描いていた「シベリア鉄道」の、最高の旅の始まりを演出し始めた。

午前11時22分。我々を乗せたモスクワ行きシベリア鉄道は、定時に北京中央駅を出発。さあ、これからの28時間、どんなスペシャルな“時”が、我々を待ち迎えているのだろう。

果てしなく続く平原に沈む、真っ赤な夕陽。

旅番組の中の世界でしかないと考えていた、食堂車で味わう鉄道ディナー。

列車の中で迎える国境越え。

宝石箱をひっくり返したような、満天の星空。

誰もが言葉を失った、地平線から昇る朝日の光景。



私の拙い文章力ではとても表現できない、数々の異次元な体験を経たのち、車窓からは多くのゲルと低層ビルが見え始めた。この街が、どうやら私たちが下車するウランバートルだ。

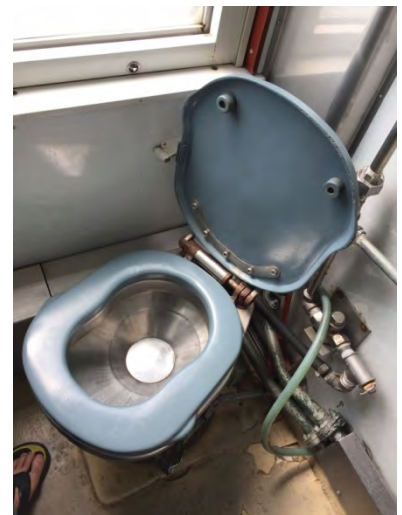
楽しかったお祭りが、フィナーレを迎えてしまった空虚感。そして、いよいよこれから始まるモンゴル大草原の旅。

寂しさとワクワク感を併せ持ちながら、28時間のシベリア鉄道の旅を終え、私たち15人は遂にモンゴルの大地に足を踏み入れた。

小林団長のポエジーな記事のあとですが、国際列車をもう少し写真にてご紹介します。

○トイレは懐かしのタンクレス！排泄物はそのまま線路へGO。大自然のなせる技です。

○食堂車 最初は中華料理。お味は・・・程々です。モンゴルに入る前に車両の入れ替えがあり（中国からモンゴルへの国境沿いの駅では、それぞれの国の鉄道の線路幅が異なるので車輪台車を交換します）、その時に食堂車も中国風からモンゴル風（料理も）がらっと変わります。



← 8月25日は中国風 料理も中華



翌26日朝にはモンゴル風 料理もUB仕様→



○ウランバートルに到着！

シベリア鉄道「K 2 3号」は、8月26日（水）に無事ウランバートル駅に到着しました。そして、プラットフォームでお迎え下さったのが、松本電機さんのお友達で今回の視察をアレンジしていただいたSMART ENERGY社のEXECUTIVE DIRECTOR AMARSANAA Tur-Amagalan様（通称：アマちゃん）です。第一印象「で・・・でかい！」まさにモンゴルの男そのものです。アマちゃんの満面の笑顔にホッ



としながら、モンゴルの地へ足を踏み出しました。

駅舎を出た第一印象は「車が多い！」道行く車のほとんど（7割以上）が右側通行にもかかわらず、右ハンドルの日本の中古車ではありませんか。しかも驚いたのは、その9割がトヨタ車で、圧倒的に初代から二代目のプリウスが占めていることです。

「何故プリウス？」答えは簡単、ハイブリッド車に対する税金がうんと

安いからだそうです。でもバッテリーの積み替えはしているのか？ハイブリッドでも、環境性能はガソリン車と変わらないのではないか？などと思ってしまうました。

渋滞の中心部道路を通過し目指したのが、宿泊先のフラワーホテル。ここは日系ホテルで、日本語の通じるスタッフが常駐しています。ゆえに、日本人宿泊者御用達と言うところ。



部屋にはエアコンがありません。バスタブもなくて、お湯の出具合もいまひとつでした。

ペットボトルの水もサービスではついていません。救われたのは、日本式の大浴場があることです。

こちらのホテルで二泊して、ウランバートルを訪問しました。

到着日の午後6時半からアマちゃんのご友人も参加していただき、ウェルカムパーティー。

立命館大学政策学部へ留学されていて、最近までコマツのウランバートル取り事務所に勤務されていたザヤさん。通訳をご担当していただきました。その他、シンクタンクで北東アジアの安全保障関連の仕事をされているドルジさん、モンゴル教育省にお勤めのガンバさんなど、お顔ぶれも様々な方にお越しをいただき、交流することが出来ました。アマちゃんは「モンゴルで物作りを行いたい」と挨拶。日本の中小企業の技術を是非モンゴルへとエールを贈っていただきました。（M・H）



○ウェルカムパーティーでの一コマ

アマちゃんの音頭で乾杯。モンゴルメンバーの自己紹介、視察団の自己紹介を行い、モンゴル料理をいただきながら和やかに歓談しました。



翌27日（木）は終日企業訪問。
ホテル玄関前での記念写真。

モンゴルの料理です。肉料理がメインですが、案外野菜も豊富。ボリュームがあって、とても食べ切れませんでした。



企業訪問 Ecobus Company

8月27日(木) 宿泊先のフラワーホテルを午前8時30分に出発。ホテル前の駐車場にやってきたチャーターバスは、何と視察先エコバスカンパニー製造の「路線バス」ではないですか！ これは驚きです。この様なバスで市内を走行していたら、きっと勘違いして一般のお客さんが乗ってくる(実際に手をあげて乗ろうと知る方がいらっしやいました)。

その様な驚きもなんのその、我々は市内の渋滞の中を一路エコバスカンパニーへ向かいました。バスに乗って、先ず気が付いたのは、エアコンがありません。朝夕の気温は低いウランバートルですが、日中の気温は30度近くになりました(珍しいことだそうです)ので、社内は実に熱い、熱い、熱い。

エコバスカンパニーでは、エンジニアのボルトさんにお話を伺いました。年間100台のバスを組み立てるのが目標で、従業員は100人。1日三交替で24時間稼働。現在工場で10台組み立てているそうで、創業1年ですがすでに20台を納めているそうです。

部品はロシアや韓国から、エンジンとシャーシーは中国から輸入し、現在窓ガラスを作るように研究中とか。

ボディーはモンゴル製ですが、FRPのようで、強度はちょっと疑問。でも国の安全基準を守っているとのこと。スピードは100キロ出るそうで、モンゴルの交通局や民間バス会社に販売しています。

バス1台を5人掛かりで、1週間で組み立てるそうです。政府はバスの輸入にかかる税金を高く設定していますので、部品から組み立てるエコバス社からの購入が増えているそうです。

いくつもの国から部品を集めて組み立てるのは、なかなかの技術だと思います。

バス1台は、約1,500万円。エコバスのエコは環境に良いという意味だと聞きましたが、エンジンに特別な環境システムが採用されているようには見えませんでした・・・。(M・H)



Sanko Solar companyを訪ねて

筒井長徳 龍谷大学エクステンションセンター コーディネーター

Ecobus LLCの視察後、Ecobus社のバスに乗り、日系の企業で、「SANKOU SOLAR MONGOLIA Co.,Ltd.」と「SANKOU TECH MONGOLIA Co.,Ltd」を訪問させていただきました。これらの2つの企業は、埼玉県の賛光精機(株)という企業のグループ会社です。これら2社は同じ建屋の中にあり、それぞれ950㎡、280㎡で合計1230㎡の面積を持つと説明がありました。

それぞれの会社の立上げ期には日本人が教育に来ていたようですが、現在は経営者を始め従業員はすべてモンゴル人の方々によって運営されています。また、日本から運ばれてきた装置が工場に設置され、生産が行われています。品質管理や製造工程の管理は日本式が導入され、朝礼、掃除といった日本企業の習慣も取り入れられています。

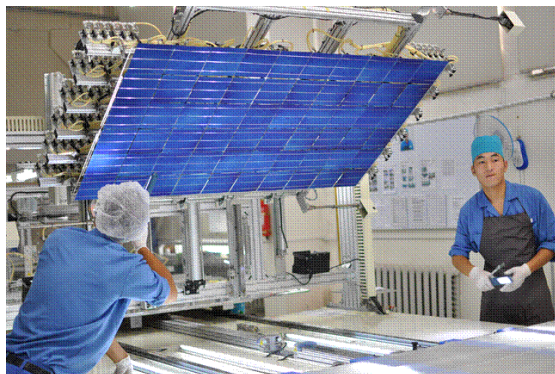
「SANKOU SOLAR MONGOLIA Co.,Ltd.」は2011年に設立され、ソーラーパネルの製造・販売を事業としています。製造したソーラーパネルの98%が日本向けとのことです。

ソーラーパネルに使われる太陽電池素子は台湾製で、1枚当たり4.7Wの能力を持っています。ソーラーパネルは、この太陽電池素子を60枚アセンブリして一枚のパネルになっています。ソーラーパネル1枚当たりの発電能力は260Wとのことです。ソーラーパネルの年間当たりの生産量は発電能力換算で10MWとのことです。

従業員数は27名でその内12人が製造で、残りがエンジニアや管理職、事務職等とのことです。現在は、交代勤務は行われていなく、8時間勤務とのことです。

「SANKOU TECH MONGOLIA Co.,Ltd」は2005年に設立され、マシニングセンター7台により機械部品の製造を行っています。ここも同様に日本式の管理方式を導入して生産を行っています。顧客は賛光精機(株)が100%であり、年間の製造部品数は4万から5万個で、1日当たりでは100から1000個とのことです。加工用の原材料は日本製とのことです。生産された部品の日本への輸送は、納期の関係があり、航空便で行っているとのことです。

加工の技能者は日本で5年間の教育、研修を受けてモンゴルに戻ってきた、有能な人たちを採用しているそうです。従業員30名の内、部品生産に関わる12名は2回交代制で1日当たり10.5時間(2.5時間は残業扱い)労働していますが、2日働いて1日休暇というサイクルで就業しています。また、従業員の平均年齢は25歳ぐらいで若い方が多い企業です。



ソーラーパネルの製造風景(SANKOU SOLAR)



マシニングセンターの説明を伺う(SANKOU TECH)



SANKOMONGOLIA GROUP の皆さまに見送りをいただきました！ 感動しました！

この視察の終わりに、我々が建物から出た瞬間に驚いたのは、従業員の皆さんが一行に並んで見送りをしてくださいました。このような経験は今までの視察の中で初めてでした。非常に教育が行き届いていることや社員方々の資質の良さを改めて感じさせられた一場面でした。

●モンゴルでも実践される理念型経営

写真は「SANKOU SOLAR MONGOLIA Co.,Ltd.」の工場内に掲げられた経営理念です。

品質方針と共に、朝礼で日本語とモンゴル語と両方で唱和されていますので、従業員さんも良く意味を理解されているそうです。

経営理念を浸透させるということは、仕事への取り組み方や接客などすべてに活かされると言うこと。私たちも見習わなければと思いました。



メガワットグループ訪問記

山科精器株式会社

大日陽一郎

日時： 2015年8月27日（木）

場所： モンゴル国ウランバートル

訪問先： Mega Projects Group / Mr. Chimed ZUNDUI-OSOR, President

Mega Watt LLC / Mr. NYAMJARGAL Bold, Vice Director

概要：

- ・ 石炭火力発電所で発生する蒸気を近隣の居住用アパートメントに供給するために建設中のセントラルヒーティング設備・配管の工事現場を視察。
- ・ セントラルヒーティングは欧米では一般的で水道やガスと同じく蒸気を供給している。戸別の暖房が発達している日本では少ない。モンゴルで普及しているのはロシアの影響も強いのではないか。
- ・ モンゴルでは遊牧民が都市に居住し始めており、特に若年者用アパートメントが不足しており建設中である。広大な国土ではあるが、広範なインフラ整備が進んでいないために局所的にインフラを整えて高層アパートメントを建築している。
- ・ 火力発電所ではロシア製のタービンや発電機を使用しているとのこと。熱交率が高いのは日本製だが、日本とは違い熱源の石炭が安価で調達できるため、効率よりもコストの安さを優先してロシア製なのではないか。
- ・ メガワットグループではモンゴル国東部で 100MWの石炭火力発電所も建設予定で政府との調印も間近とのこと。モンゴルの国策として安価な資源に支えられた発電事業に力を入れ、ゆくゆくは中国、朝鮮半島、日本への電力販売も視野に入れている。
- ・ 日本からの資源への投資、技術の提供を期待している。石炭、鉄鉱石、銅、レアアースといった資源の豊富さは言うまでもないが、これら資源の一次加工・二次加工ができるための技術供与を日本には期待している。



以 上

ULAANBAATAR CAPPET company を訪ねて

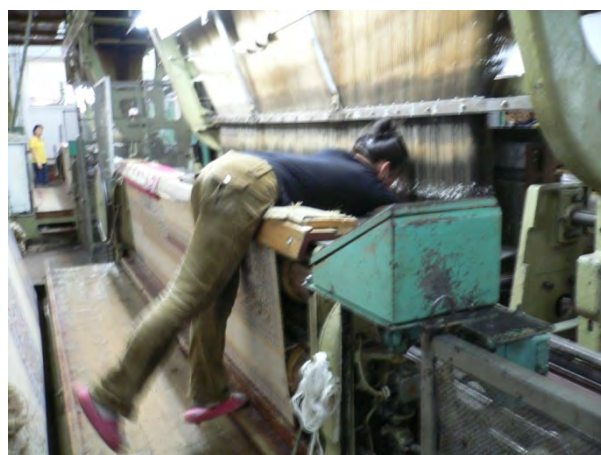
1971年にドイツの投資で誕生したカーペット製造会社です。モンゴル羊の毛を100パーセント使用。製品の70パーセントはモンゴル市場で販売。30パーセントは中国へ輸出されています。現在はドイツとの関係は全くないとのこと。

染料はスイスから輸入したオーガニック。生産能力は10万㎡/年ですが、最大は40万㎡/年まで出来るそうです。

44年の歴史と言うことで、工場も設備もなかなかレトロなものでした。

製品はモンゴルの自然や動物、チンギス・ハンをモチーフにしたものから、幾何学模様のものまで様々でした。

社長のENKHTUR氏は、日本への輸出に意欲的で、カーペットの取り扱いに興味のある企業を是非紹介して欲しいと話されていました。お値段は、おそらく同等の物を日本で買う価格の3分の1以下だと思います。(M・H)



Nomin Construction company を訪ねて

ウランバートルでの最後の訪問先は、デベロッパーです。

Nomin はモンゴル有数の大資本です。

訪問した街には自然と水辺、見事なマンションにフットサルコートが作られていました。

ここは2010年から造成が始まったそうです。

まったく何もなかった原野だったそうですが、素晴らしい街へと変貌しています。

さらに、近くの山には植林し、水タンクをおいて木を育てています。そういうところがウランバートルに4ヶ所あるそうです。

人口280万人のモンゴルで、いったいどのような人がこのマンションを買うのか・・・？

何しろ、マンションのワンフロアすべてを自宅として購入する富裕層がいるそうです。

モンゴル＝ゲルでの暮らしという先入観では、まったく想像も出来ない街を拝見して、ただただ驚くばかりでした。(M・H)



● 開発の模型



● 高級マンションの家具

◇テレルジに思う

○大洋産業（株）代表取締役 小田柿喜暢



テレルジ国立公園は、ウランバートル市から 70km 程離れた所にある山々や森林に囲まれた清流の流れる自然豊かな保養地です。ここでは、モンゴルの遊牧民の移動式住居ゲルを利用した宿泊施設で過ごしたり、自然の中を乗馬でトレッキングしたりという体験が出来ます。

我々は視察最終日にテレルジ国立公園で過ごすことにしました。モンゴルというと地平線の広がる大草原でのキャンプというイメージをしていましたが、それは遊牧民の日常的な生活の一部であって、保養となると森林や清流のある中で過ごしたいという願望があるそうです。したがって、テレルジ国立公園のような場所が人気のスポットになるようです。

当日の宿泊地に到着し昼食をいただいた後、乗馬トレッキングで自然を堪能する体験です。ほとんどのメンバーは初めての乗馬だったのですが、堂に入った(?)乗馬ぶりで森の中や川の中を馬と共に進んでいきます。3時間の行程でしたが、十分、遊牧民気分になりました。

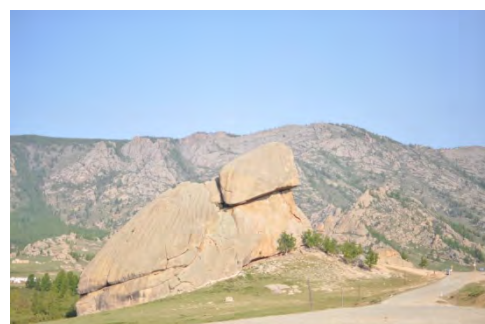


夕食後、焚き火を囲んでの国際交流会。我々日本人チームとモンゴルチーム（ガイドをしてくださった方々や宿泊施設運営の方々）で歌合戦(?)です。

日本側は琵琶湖周航の歌から始まり歌謡曲を中心、モンゴル側は民謡を中心に交互に歌合戦です。特に心に響いたのは、内モンゴル出身（中国側）の参加者が歌われたモンゴル民謡です。今は国が違いますが“モンゴル民謡”は同じ、中国との国境で二分されたモンゴルが一つの雄大な地域だったことがうかがわれます。この素晴らしい歌声に感動の大喝采で交流会の幕を閉じました。

翌朝、帰路の途中、亀石という大きな亀の形をした岩へ立ち寄りました。亀石は途中まで登ることが出来るということだったので皆で登りしばし景色を堪能。この景色を見ながら昨夜のモンゴル民謡を聞けばいいなあという無理やりのリクエストに応じていただき、またもやここでも素晴らしい歌声に大喝采でした。

そんなこんなで一泊二日のテレルジ国立公園の体験ツアーは終了しました。まるで、林間学校のようなツアーでしたが、暫し、童心に返ることが出来た一行でした。



●UBの思い出・・・写真集





ӨНГӨСӨН ДЭГ
 -ын №
 АРМ INSURANCE

Тус цагдаагийн хэлтэст шалгагдаж байгаа гэмт хэргийн шинжтэй гомдлын давуу Япон улсын иргэн HIROSE MOTOUKI нь ай фел 6 мөрийн гар угсаа Баянзүрх дүүргийн 14-р хорооны нутаг дэвсгэрт халаанаасаа алдаж манай байгууллагад бүртгүүлж шалгуулсан нь үнэн болно.

Цагдаагийн ахлах дэслэгч Б.Батголбоо утас:88018033

ХБТ-ИЙН ДАРГА, ЦАГДААГИЙН ДЭД ХУРАНДАА Л.ТАНБААТАР

Бүртгэлийн дугаар: 2015/053/0018372
 Огноо: 2015.08.08
 ТЭМДЭЛЭГЭЛЭГЭРЭЙН АНХАГААНЫ ТУСГАЙН ГЭРЭЛЭГЭЙН
 8386 М.Мунгалжав 98187700

モンゴルの経済、雰囲気を少しでもお伝え出来たならば幸いです。モンゴルはエネルギーやレアメタル、大規模農園など国家的なプロジェクトが中心で、市場規模からしても中小企業の出番はなかなか無いかもしれません。がそこに暮らしがあり、もの作りやメンテナンスの技術が求められています。そこにビジネスの芽を見つけだせるかどうかがかギだと思いました。(M記)

○全体を振り返って・・・

(株) 松本電機製作所 代表取締役 松本 一志

今回の旅（研修旅行）もメンバーと現地の協力によって成功に終わる事が出来ました。
長い準備期間を経て1年で一番大事なイベントに向って仕事も体調も整えて出発し
多くの事を経験して学んで 全員が怪我もなく無事に帰国できた事を本当に嬉しく思っています。

また天候にも恵まれ またトラブルも大事が小事で済んだ事もあり幸運に感謝しています。
私自身モンゴルは2回目で、仕事も観光も魅力に溢れた国であるため、是非同友会での視察を提案
しました。

これにモンゴルの友人に協力頂き、また海外スペシャリストの幹部達の素晴らしい企画によって素
晴らしい視察の旅になったのだと思います。

もし鉄道を使わなかったら、天候が悪かったら、大きなトラブルが発生したら、モンゴル語や中国
語の出来る参加者が居なかったら・・・ 旅の印象は大きく違っていたと思います。



偶然の産物のように見えますが多くはメンバーの
人脈や能力による物ではないでしょうか？
これからの研修も学びと経験をビジネスに生かせる
ようあとは我々個人の努力で頑張りましょう。

最後に我々の安全に対して大変気遣って支えて頂
いたモンゴルの友人 アマルサナー氏に感謝した
いと思います。

良い会社・良い経営者・良い経営環境をめざす

滋賀県中小企業家同友会

〒525-0059 草津市野路8丁目13-1

TEL077(561)5333 FAX077(561)5334

E-mail jimu@shiga.doyu.jp

ホームページ <http://www.shiga.doyu.jp>